

BCJ-SAR ISOだより Vol.15



財団法人 日本建築センターシステム審査部
〒105-8438東京都港区虎ノ門3-2-2第30森ビル

☎ 03-3434-4537

FAX 03-3434-4560

ホームページ <http://www.bcj.or.jp>

Eメール sinsa@bcj.or.jp

我が社のISO(その12)

『社会にあって
なくてはならない会社になろう』

初雁興業株式会社は、埼玉県の「小江戸」と呼ばれる川越市に位置し、官公庁及び民間発注の土木・建築工事を請け負う総合建設会社です。

1999年にISO9001、2002年にISO14001を認証取得いたしました。

当社は、地元埼玉で「社会にあってなくてはならない会社になろう」を経営方針として、技術の研鑽に努めてまいりました。

こんにちまでの建設業界は、「お客様に対し、良いものを提供すればそれで良いのだ。」との考えが主流でした。

昨今、アスベスト問題、マンションの耐震強度偽装事件より、我々建設業界に対する世間の風評は厳しいものがあります。

今後の建設業に問われるのは、「より安く」、「より快適に」、「より安全に」をお客様に提供するために、会社の独自性が問われる時代になるのかと思われまます。

当社は、「社会にあってなくてはならない会社になろう」の経営方針の基、会社の独自性を発揮するためにも環境・品質マネジメントシステムにおいて、初雁興業株式会社の独自性が問われました。

*

社内のISO委員会においても、そのことは何度も議論され、手順をより良くするための改訂を繰り返しました。その結果当社において、P・D・C・Aのスパイラル効果によりISOを運用し、良くなった点は以下の通りです。

1. お客様の評価が上がった

西潟 芳明
初雁興業株式会社
執行役員管理部長



埼玉県川越市
TEL 049-231-0872
FAX 049-234-3513

2. 社内での内部監査が充実した内容になってきた
3. 社内の部内研修において、他部署での良かった点、又は悪い点などの情報の共有ができ、水平展開に結び付けられた

また、工夫した点としては、社員よりの改善提案をより多く提案させるため、「是正処置報告書」の帳票名を「再発防止改善報告書」に改名しました。内部監査での不適合、施工中に発見された不具合についても関連部署と原因究明をするために議論しました。認識の違いであったのか、誤った認識をしているのか、或いは手順に問題があったのかを真剣に話し合い、認証当初の理解し難いマニュアル、規程と比べ、現在のものは社員が理解しやすいものへ改訂し、帳票にも「書類の流れ」を記載し、社内への書類の流れはスムーズなものになりました。少しの工夫でも成果としては、大きいと思いました。

当社では、工事完了後に「完成工事報告会」を開催し、作業所長が社長、役員、各部長の前で、工夫した点、良かった点、成果が出なかった点等を発表します。「完成工事報告会の記録」は各部に伝達され、先に述べた通り水平展開に結び付けて情報の共有化をしています。

昨年、建設業界に大きな転機となる法律

が成立しました。「公共工事の品質確保の促進に関する法律」、いわゆる「品確法」です。従来の価格競争のみの入札方式を改め、価格と品質(企業の技術力)などを総合的に評価して落札者を決定することを打ち出した法律です。公共工事は、受注業者の技術力によって品質が大きく左右されます。技術力と応札価格を総合的に評価して請負者を選定することは公共工事の性質から当然要求されることです。

当社においても「品確法」が施行されてから、ある工事の入札の際、価格は2番目であったにもかかわらず総合評価方式で工事を受注することができました。

当社は、「品確法」が施行されてから社内に「技術提案プロジェクトチーム」を発足させました。これは品確法、発注者の考え方に沿った対応をするためです。メンバーは、工事、営業、積算、及び安全の業務をしている社員より構成されています。

個別の工事案件や作業所で携わっている技術を総合的にまとめ、将来の技術提案に活かせると考えています。

今後も経営方針である「社会にあってなくてはならない会社にしよう」のため、ISOという「継続的改善」を行い、当社としての独自性を発揮していきたいと考えています。

- 初雁興業株式会社の概要
- 明治30年 土木建築請負業を「関根組」として個人営業
- 昭和16年 個人営業を「株式会社関根組」に組織改正
- 昭和22年 株式会社関根組から「初雁興業株式会社」に商号変更し現在に至る

- 主な業務内容
- 土木、建築工事の設計・施工



我が社のISO(その13)

『QMSと企業内CPDとの関係』

当社は建築設備設計専門の一級建築士事務所としては、ISO9001を全社で取得した日本で最初の設備設計事務所です(H11.11に取得)。既に7年近くの実績を持ち、毎年QMS*1体系をベースとした“経営目標”とリンクした品質方針を掲げ、確実な業務執行と継続的業務改善をPDCAサイクルに沿って運用し実行しています。

そのなかでも人的資源の質的向上を図る“能力開発年度計画”は企業運営の重要な位置付けとして、ISO9001において取り組んでいます。このなかでの社員教育実績が評価され、(社)建築設備技術者協会*2から“企業内CPD*3”の認定を平成17年7月にいただきました。また、環境設計の重要性が増すことを踏まえ、平成13年2月にISO14001を本社で取得しています。今後、“企業内CPD”においても環境教育を全

西村 喜卿
株式会社 総合設備コンサルタント
顧問
QMS管理責任者



東京都渋谷区
TEL 03-5453-3050
FAX 03-5453-3062

国に水平展開していくことにしております。技術的専門分野が多様化している現在、個々の技術者(資格者)が資格取得後もCPDにより、得意とする専門技術を更に高め、これを消費者(社会)に開示することが求められてきています。

ここで、CPDの概念を少し紹介しておきます。

- ① 技術者の質を社会的に認証するシステムを整備する。
- ② その能力が国際水準に適合していることを保証する。
- ③ 常に最先端の技術・知見の習得が可能となるよう、学協会、大学等における継続的な教育の充実を図る。

これらにより、継続的な教育を通じ一貫した技術者の資質と能力の向上を図るシステムを構築する。

このような概念がQMSの“顧客満足度の向上”という意志に合致していることで、CPDと密接な関係があることが分かります。

今、社会背景として耐震偽装問題を契機に多くの企業がCSR（Corporate Social Responsibility）や倫理教育の強化に努めようとしています。このようなことが資格取得者の専門能力を維持・向上していくために“企業内CPD”が必要不可欠であるとの認識を高めています。

最後に、QMSを“企業運営・組織運営”の基本システムの一つとして、マネジメン

トレビューで改善点を積極的に採り上げ、QMSによる企業の健全化に一層努めたいと考えます。

*1 QMS(Quality Management System) 品質マネジメントシステムは、「品質に関して組織を指揮し、管理するためのマネジメントシステム」

*2 (社)建築設備技術者協会

: URL <http://www.jabmee.or.jp/>

*3 CPDとは、“Continuing Professional Development”の略で、(社)建築設備技術者協会では“継続職能開発”とっている。

●株式会社 総合設備コンサルタントの概要
昭和49年 6月 創立 現在に至る

●主な業務内容

建築設備・地域環境設備の設計及び
工事監理



ISO登録組織意見 交換会からの報告3

システム審査部では、2004年12月から全国各地でISO登録組織意見交換会を開催しています。ISOだより12号に引き続き、最近開催した意見交換会の中から、参考になるとと思われる事例を質問と回答形式でご紹介いたします。

Q：内部監査の有効性は、監査員の力量に依存すると思いますが、新人の監査員に対してはどのように教育していますか。

A：規格の要求事項を理解させただけでは、監査はできませんので、監査チームに監査員候補者を随行させて、監査のやり方（質問の仕方、記録の取り方等）について、OJTで教育しています。監査員候補者は当然若手が多いわけですが、彼らは自社内

とはいえ他部署がどのような業務を行っているのか、詳しいことは知らないし、聞こうともしなかったわけですが、監査に随行することによって、他部署の業務を理解する良い機会になりました。

<BCJからひとこと>

最近、他人のことには無関心で、組織内のコミュニケーションが上手に図れない者が多いと聞きますが、内部監査の機会にベテランの監査員から知識を学ぶと共に、他部署の業務も理解するという事は、内部監査による効果が、業務の改善以外にも社員教育（力量アップ）と良好な内部コミュニケーションの形成という、組織としては一石二鳥にも三鳥にもなることでしょう。

Q：厳しい経営環境の中で、ISOどころではないという話しも耳にしますが。

A：まずは営業努力で売り上げ目標を達成することです。併せて、利益率を向上させることも大切で、そのためには良い下請けを探して工事原価を下げることも必要だと考えています。ISOの購買管理も徒や疎かにできません。

Q：建設業では下請けを数多く使っていますが、審査では「評価していない下請けを使った」という不適合が多々あります。この点についてはどのようにお考えですか。

A：そのような組織は危機感に乏しいということではないでしょうか。先日、知り合いのゼネコンで公共工事の評点が60点ギリギリになったことがありました。その時、「あれは下請けが悪すぎた。」と当のゼネコンは言っていました。だからこそ下請けをきちっと評価し、管理する必要があったのです。下請けが悪かったのは、それを管理する元請けが悪かったということで、元請けの力量も問われているのです。

<BCJからひとこと>

下請けの評価も、規格8.2.3「プロセスの監視及び測定」と連動させて、作業手順にそった監視項目を決めたうえで実施し、併せて、現場監督の力量評価も行い、力量が不足していれば教育訓練に結びつけるという一連のシステムで運用することも可能でしょう。

Q：昨年来、建設業界では下請けが絡んだ事件も起きていますが。

A：我が社はゼネコンで、直接関係はなかったのですが、構造計算書偽装事件やエレベーター死亡事故の話も教訓としてみんなで話し合い、下請けの評価も含めた管理方法を見直しました。リスクに応じた管理をどこまで行うのか、大きな課題ですが、企業の命取りにもなりかねませんので、気を引き締めているところです。

<BCJからひとこと>

「アウトソースしたプロセスに関して管理を確実にすること」の重要性がはっきりした事件、事故でしたが、「アウトソース＝丸投げ」の図式は成り立たず、何らかの管轄権をもつべきことが明らかでしょう。

Q：吹き付けアスベストは戸建て住宅では、あまり使われていなかったと思いますが、スレートボード等のアスベスト含有建材については、逆にほとんどの住宅で使っていたのではないかと思います。どこに使われていたのか、問題はないのか等について、住宅の購入者に知らせていますか。

A：屋根材、床材、天井材等として、スレートボードなどを使っていました。どこに使われていたのか、図面に落とし込み、また、アスベスト含有建材は非飛散性なので特に心配されなくてもよいことを付け加えて、各ご家庭にお知らせしました。おおむねご理解いただけたと思います。

Q：ということは、図面や仕様書が保管されていたのですね。

A：保管されていました。トレーサビリティの要求事項について、規格の意図がわかってきました。

<BCJからひとこと>

トレーサビリティがとれるということは、何か問題が起きたときに、どこに問題があったのか、その原因を追及し、特定することにより、被害の拡大を防ぐことができます。また、建築物の修理・メンテナンスのためにもトレーサビリティが必要になります。



システム審査部からのお知らせ

■更新を迎える組織の皆様
へのお願い。

重要

審査時期によっては、審査が混み合う事が予想されますので、余裕をもって更新申請書をご提出されますようお願いいたします。(更新申請書の他に「申請者調査表」の提出が必要になります。)

申請書及び調査表は(財)日本建築センターホームページ(<http://www.bcj.or.jp>)よりダウンロードしていただくか、「品質マネジメントシステム審査登録の手引き(R39)」又は「環境マネジメントシステム審査登録の手引き(ER39)」に添付されている様式をご利用下さい。

更新審査以降に実施するサーベイランスは更新審査最終日を起点に実施する事になります。詳細はお手元の「審査登録の手引き」にてご確認下さい。

なお、ご不明の点等がございましたら下記までお問い合わせ下さい。



システム審査部
TEL 03-3434-4537
FAX 03-3434-4560

登録組織の集い開催のご案内

■財団法人 日本建築センターにて審査登録された組織の皆様にお集まりいただき、登録組織の集い(旧意見交換会)の開催を下記のとおり予定しておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

10月13日(金) 広島市RCC文化センター
10月24日(火) 横浜市万国橋会議センター
11月10日(金) 大阪市アピオ大阪
11月15日(水) 甲府市アイメッセ山梨
1月19日(金) 千葉市民会館
1月26日(金) 福井市フェニックスプラザ
2月9日(金) 当財団会議室(東京)
2月16日(金) 金沢商工会議所
2月23日(金) 水戸市民会館

問い合わせ先

システム審査部 石原、金谷、齋藤
TEL 03-3434-7188
FAX 03-3434-4560

■今後開催される登録判定会議の日程は下記の通りです。

10月17日(火)、11月21日(火)
12月19日(火)、1月23日(火)

編集後記

やっと暑さも和らぎ、一段と秋の色が濃くなってきたこの頃、仕事ばかりではなく、たまには公園などに出かけ、リフレッシュするのもいいかも知れません。

今回は「審査員の目」をお休みしましたが、皆様への情報をたくさん盛り込みましたので、お役に立てばと思っています。

これからも、システム審査部では、皆様に少しでも役に立つ審査登録業務をご提供するため、引き続き努力してまいります。





品質マネジメントシステム新規登録組織紹介（2006年8月～2006年10月）

登録番号 (BCJ-QS)	登録組織名・事業所名	所在地	登録された品質マネジメントシステム
0834	川浪電気工事株式会社 本店、 福岡支店、鹿児島出張所	福岡県久留米市	電気・通信・冷凍・空調設備の設計及び施工
0835	株式会社 水十水工業	東京都葛飾区	水道工事(下水道管渠の補修工事、樹工事、 人孔上部補修工事)及びメンテナンス(故障処 理、管路内清掃工、沈砂・しき等の収集運搬) (顧客は官公庁に限定される)
0836	有限会社 藤沼建設	栃木県下野市	土木構造物の施工
0837	株式会社 児玉組	高知県宿毛市	土木構造物の施工
0838	三省土木株式会社	佐賀県佐賀市	土木構造物の施工
0839	テック大洋工業株式会社	東京都大田区	公園施設、都市環境施設、鋼構造物、道路・ 河川用情報盤、各種競技場用照明鉄塔及び照 明ポール、照明施設、小型自然エネルギー発 電施設(風車、大洋電池等)の設計、開発、製 作、据付施工及びアフターサービス



環境マネジメントシステム新規登録組織紹介（2006年8月～2006年10月）

登録番号 (BCJ-EMS)	登録組織名・事業所名	所在地	登録された環境マネジメントシステム
0125	菊池運輸株式会社 本社及び東京営業所	東京都足立区	陸上貨物輸送に係わる事業活動
0126	株式会社 研空社	神奈川県川崎市	建築設備の設計及び施工